

施政方針

平成
27
年度



平成 27 年 2 月 26 日開会の高島市議会 3 月定例会の開会に伴い、福井市長が示した施政方針の概要をお知らせします。

地方創生



さて、我が国は世界に先駆けて「人口減少、あるいは超高齢社会」を迎え、国におきましては昨年「まち・ひと・しごと創生法」いわゆる地方創生法が制定され、全国に共通するさまざまな構造的な課題に対し、全ての地方公共団体が主体性を発揮した地域づくりへの取り組みが求められております。

具体的な取り組みといたしましては、まずは平成27年度中に、高島市独自の地方創生総合戦略を策定するとともに、新年度より先行取り組みをスタートし、未来へ向けたまちづくりを展開してまいることになります。

私は、この高島の地の未来へ向けたキーワードは、「サステイナブル」いわゆる「持続可能な社会づくり」であろうと考えています。

そのためにも、昨年11

月に市の将来を担う若手職員による「地方創生総合戦略研究グループ」を設置し、現状把握や課題整理を経て、地方創生総合戦略の本年度の策定に向け、具体的な施策の検討を部局横断的に進めているところでございます。

その先行取り組みの一例といたしまして、本年1月に庁内の若手職員6名に対し、現行の「ふるさと納税」の課題整理や今後のあり方についての検討を指示いたしましたところ、収入財源の確保にとどまらず、市の特産物の販売促進や観光客の増加につながるプラン、さらには地域経済への波及効果や定住促進にもつながる新たな新しい素晴らしい制度提案があり、早速、新年度予算に「びわ湖高島えんむすび事業」として、歳入予算としての納税額（寄附金を1億円計上する等、具体化しているところであります。

他に遅れをとることなく、逆に先行する形で高島の地を将来につなげてまいりたいと考えております。

一昨年2月に市長に就任させていただき、これまでを振り返りますとこの2年間、実にさまざまな課題や問題が発生いたしました。

とりわけ、昨年4月に発覚いたしました市の環境センターにおけるダイオキシン類超過問題につきましては、平成19年度から7年間の長きにわたり事実を隠ぺいし、大阪湾フェニックスセンターへのばいじんの搬出、埋め立て処理をただ漫然と繰り返してまいりました。

これまでの行為は、組織としての法令遵守の欠如や問題を生送りしてきた危機管理体制の不備が招いたものであり、地方公共団体としてあるまじき行為であることは言うまでもありません。市民の皆さまはもとより、大変多くの関係機関や団体の信頼を失墜し、まさに事案発生後のこれまでの一年間は、信頼回復に向けてのゼロからのスタートでもありました。

また同時に、この問題の解決は、これまでの高島市役所のあり方を変える機会にとらえ、全ての職員が気概を持って職務に携わり、とりわけ幹部職員に対しては、その職責の自覚と必要な覚悟を求めたところでもあります。

一度失われた信頼の回復は容易ではありませんが、組織全体がすべての事務事業の執行において、原点に戻り真摯な姿勢で誠実に対応することにより、道は開けるのではないかと考えております。

現時点では、大阪湾フェニックスセンターへの受け入れ再開は至っておりませんが、必ず私の責任において全面解決をさせていただきます。

庁舎問題



次に庁舎問題についてであります。これまでも繰り返し、機会あるごとに説明してまいりましたが、例えば、合併時には10年後の将来人口を56,700人と推計してまいりましたが、現在では、52,000人を割り込み、およびその1割に相当する約5,000人の乖離が生じています。

また、合併時の協定によりサービスは高く、負担は低くでスタートいたしました。各種の一般行政サービスの実際からは、例えば、国民健康保険税や水道料金などは、これまで必要な定が見送られ、既に早い段階から独立した会計としての収支バランスが保たれずに運営が立ちいかない状況となっております。

さらに、旧町村から引き継いだ多くの公共施設は、県下平均の約2倍の床面積を有し、今後の大規模改修や維持管理を考えた時に市

の財政を大きく圧迫することは確実であるなど、合併時に描かれた姿からは、大きく隔たり、思い切った大胆な見直し避けられない状況ともなっております。

一方で、市本庁舎には、災害時の本部機能が発揮できるスペースの確保や各部局を集約することで効率的で効果的な行政サービスの実現を図ることなど喫緊の課題がございます。また、財源となる合併特例債の発行期限と整備スケジュールを考えますと時間的な余裕がないことも事実です。

こうした中で、昨年9月、市役所の位置に関する一部改正条例案の議決後、私自身、高島経済会をはじめ大変多くの市民の皆さまからさまざまなご意見をいただく中で、やはり現在の新旭庁舎を最大限活用させていただき、必要な改修と不足する面積を増築する事が間違いのない選択と確信しているところであり、また、それは私の政策の大きな柱でもあります。

昨年9月に、一旦は議決いただいておりますものの、議員各位には改めまして、再度のご判断を仰ぐこととなりますが、どうか高島の将来に想いを馳せていただき、ぜひとも間違いのないご判断をお



詳しくは
13ページに掲載

願ひ申し上げます。

また、同時に、市民生活に一番身近な窓口である支所につきましても、老朽化や耐震性を有していない建物もありますことから、市民の皆さまの利便性の向上や地域防災拠点機能等を確保するため、順次、老朽化が著しい支所から計画的に整備を進めてまいります。

そのため、平成27年度には、今津支所および安曇川支所の移転に係る実施設計業務を進めてまいります。

また、今津地先の新庁舎建設予定地であった市有地約3.6ヘクタールの用地につきましても、かねてより議会からも、当該土地の利活用方策に関するご意見やご質問をいただいております。

そのため、今議会に提案しております「公有地利活用検討委員会」を設置し、新庁舎建設予定地も含めまして、地域活性化に資する市有地の利活用方法を速やかに検討し、その検討結果に基づいて対応してまいりたいと考えているところです。

産業振興・経済活性化



●内閣府が2月に発表した月例経済報告では、「景気は、個人消費などに弱さが見られるが、緩やかな回復基調が続いている。」とあるものの、市内の有効求人倍率は全国平均を下回り、依然厳しい状況が続いています。

●企業誘致については、製造業だけにこだわらず、他産業も視野に入れながら、鋭意調整を進めてまいります。

●中小企業の振興と地場産業の育成のため、設備投資・雇用促進、労働環境整備に対する支援を継続し、経営の安定化と雇用促進を図ります。

受動的な観光行政でなく、積極的な観光振興

●老朽化する観光施設の収益性を高めるため、利用者ニーズに沿った改修を進めます。

●グリーンパーク想い出の森の大規模改修工事や、新旭風車村リニューアル基本構想の策定に取り

組みます。

●5月3日、世界33か国で同時開催されるスポーツイベント「ウィングス・フォー・ライフ・ワールドラン」の日本初開催にあたり、国内で唯一高島市が会場に選定されました。こうした機会を捉え、高島の優れた資源を積極的に発信し、この地の魅力を活かした観光振興を図ります。

子育て支援 学校教育



すべての子どもと子育て家庭に向けた包括的支援

●「高島市子ども・子育て あくしょん・ぷらん2015」に基づき、質の高い幼児期の教育・保育に取り組みます。

●保育園の認定こども園への移行により、家庭のニーズに合わせた教育や保育が自由に受けられる体制整備に努めます。

●私立幼稚園への給食費無償化の拡大をはじめ、私立保育園・幼稚園の安定的な運営を図る支援を行います。

→

ウィングス・フォー・ライフ・ワールドラン (詳しくは7ページに掲載)

市民病院



引き続き実施します。

●市内各校の「学力向上アクションプラン」の評価、改善を行います。

地域急性期医療の要、救急医療拠点病院としての役割と責任

●「病院改革プラン」に基づき、中長期的視点から経営健全化と診療施設、診療体制の整備を図ります。

●4月から「地域がん診療病院」の指定を受け、がん診療を本格的に実施することから、医療品質の向上と市民

防災・環境



の皆さまの安心・信頼につながる病院経営に努めます。

災害の影響を最小限にする「減災」と、人命最優先の防災計画

●総合防災マップの作成や各種防災訓練、出前講座、防災リーダー研修を通じ、地域防災力の向上を目指します。

●原子力災害については、当市が、UPZ30km圏内にありながら事業者との安全協定締結に至っていない福井県高浜原子力発電所について、引き続き県と連携し、協定締結に向け強く働きかけます。

高島市の豊かな自然環境を次世代に継承

●循環型社会の推進に向け、環境

道路整備



センターの在り方も含め、市の環境政策に係る各種計画の見直しを進めるとともに、高島のあるべき環境政策の方向を見極めます。

市民のライフラインでもある基幹道路の早期整備

●市民生活や地域経済を支え、災害時には避難・救護・復興のための重要なライフラインでもある国道161号、303号、367号さらに主要地方道等の早期整備を進めます。

●平成25年に安曇川工区が着工され、昨年から小松拡幅の整備が進み、海津・西浜間の湖北バイパスも多額の用地買収費用が予算化されるなど、目に見えた進捗がある国道161号について、引き続き国、県、大津市と連携し、早期整備に向け取り組みます。

以上、平成27年度の市政運営にあたり、所信と主な施策の方針につきまして、その概要を申し上げます。

まだまだ、多くの課題が山積しておりますものの、高島の未来をしっかりと見据えながら、市民の皆さまの生活を守り、そして次の世代へ誇りを持って引き継いでいける確かな高島市を目指し、将来にとって悔いのない市政運営に全力を尽くして参る決意です。

